

計画策定の趣旨

- 阿南図書館の老朽化・耐震強度不足による一般利用休止、および阿南駅周辺市街地の空洞化や中心拠点としての機能低下に対する危惧等を踏まえ、「阿南駅周辺まちづくりビジョン」を令和4年に策定。公共空間の有効活用と駅周辺のにぎわい創出を目指すなかで、図書館をまちづくりのコア機能の1つと位置づけた
- 本計画ではこうした経緯を踏まえ、これからの阿南市にふさわしい新たな図書館の姿を明らかにする

市立図書館の概要および市施策の方向性

(1) 市立図書館の概況

- 阿南図書館の一般利用休止に伴い、現在は2館と1サービスポイントでサービスを提供
- 図書館施設はいずれも市内北部の都市部に集中して立地。市の西部から南部にかけては、移動図書館車によりサービスを提供
- 那賀川図書館と羽ノ浦図書館はそれぞれ建築から25年以上が経ち老朽化が進行。また、個人で読書や学習に集中できるスペースや子ども連れで他の利用者に気兼ねなく利用できる環境等が不十分
- 蔵書は全体で約36万冊。2館は収容上限を大きく超過。特徴的資料として各館でマンガを、那賀川図書館では絵画を所蔵するほか、電子図書館サービスも開始
- 企画・行事は子ども向けのおはなし会等中心に実施
- 全国の人口同規模他自治体や県内他市と比較すると、貸出・予約冊数は平均を大きく上回る
- 市と阿南工業高等専門学校とは連携協定を結んでおり、一環として図書館も連携会議を開催



(2) 市の施策の方向性

1) 施策の方向性

- 将来都市像:「多様な産業が咲き誇る 生涯チャレンジ都市 阿南」
市民一人ひとりが自分らしさや生きがいを見出し、生涯にわたり主体的に何度も挑戦し、活躍できる地域社会の実現を目指す
- 市民の多様なニーズに応じた学びの機会の提供や学び直しを可能とする生涯学習環境、子どもが自主的に読書活動に取り組むことのできる環境を整備
- 市民の学びが住民参加による地域課題の解決や豊かなまちづくりへとつながっていくことを目指す

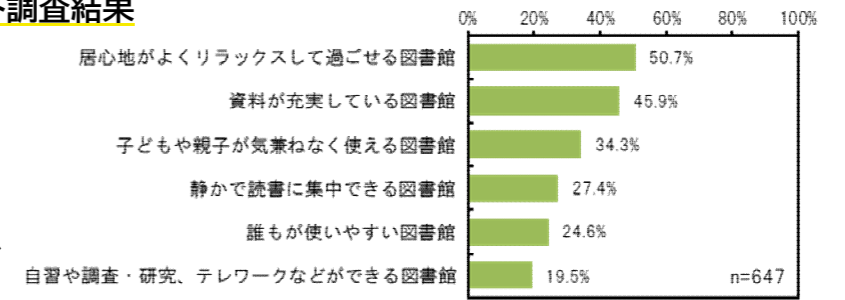
2) 阿南駅周辺まちづくり基本計画(令和5年10月)

- 「阿南駅周辺まちづくりビジョン」のコンセプトを引継ぎつつ、中心拠点としての魅力・求心力を高めるまちづくりを推進
- 令和24(2042)年度頃までを計画期間とし、短期・中期・長期の3段階で取り組む。短期での取り組みとして、市民ニーズの高い図書館機能を中心とした新たな賑わいと交流の拠点となる複合拠点の形成を推進
- 新図書館複合施設の整備箇所:3候補地の立地特性を評価し、市民会館解体跡地を整備箇所として選定

市民意向

(1) 阿南駅周辺まちづくり基本計画アンケート調査結果

- 望ましい図書館像として、「居心地がよい図書館」(50.7%)、「資料が充実した図書館」(45.9%)を全体の約半数が回答
- 自由記述の設問では、「さまざまな利用層が気兼ねなく利用できること」「明るく開放的な空間、さまざまなスペースや設備の提供」「気軽に立ち寄り、1日中楽しめる場」「イベント・講座や交流機能の充実」「学びへの支援」「阿南市らしさに溢れた場の構築」等が挙げられた



「利用したい」と思う図書館のあり方

(2) 市民ワークショップ結果

- 市立図書館の改善したい点: 蔵書の少なさや古さ、アクセスの不便さ、目的別のスペースの少なさ、子連れでの利用のしづらさ 等
- 新しい図書館でしたいこと: イベントへの参加や友人とおしゃべり、飲食、講座等を通じた学習や情報収集、ゆっくりとした滞在利用、趣味等を通じた他の市民との交流、気軽に安全な利用 等
- 図書館やまちを盛り上げるアイデア: さまざまなイベントや講座等を市民が企画し、市民どうしが教え合うしくみづくりや、多様な体験イベント、資料を活用した創作活動イベント、市の歴史資源や地域資源の活用 等



(3) 高専生ワークショップ結果

- AI や VR といった ICT 技術を活用した新しい読書環境の提供や、まちの特徴を活かした取組み、コミュニケーションの場としての図書館の活用 等

(4) 関係団体等ヒアリング結果

- 子どもや保護者が利用しやすい施設・設備や、親どうして会話できる・集まれるスペースの整備
- 本だけでなくさまざまな情報発信や企画等を行い、未知の文化への出会いや新たな学びの機会を提供することや、地域の活動の紹介等を通じ市民の交流の場となること 等

市立図書館が抱える課題

(1) 市民の多様な学習ニーズへの対応

- 未利用層を含む多様な市民のニーズや社会の変化等に対応し、市民のより深く知りたい、学びたいという意欲に応えるための資料の充実や、そのためのサービスを必要とする市民に届けるための取組みが必要
- 各市民の状況や関心に対応したサービスの提供/支援や配慮が必要な市民へのサービスのさらなる充実が必要

(2) 市域全体における図書館サービスへのアクセスの改善

- 市民ニーズが大きい市中心部において十分な図書館サービスを確保するとともに、市西部～南部および遠隔地に住む市民や子ども・高齢者等の来館困難者が図書館サービスによりアクセスしやすい環境の提供が求められる

(3) 市民の読書や学びを支える場の充実

- 市民の多様な利用ニーズに応じたスペースや居心地の良い空間の充実が必要
- 将来にわたる十分な資料保存スペースの確保/多様な学びの場としてのさらなる ICT 活用の推進が求められる

(4) 地域課題の解決や駅周辺エリアのにぎわい創出への貢献

- 市民の誰もが気軽に利用でき、活動・交流できる場の提供や、市民による企画を促し支援する体制づくり、地域の抱える問題やそれに対する市民の取組みの発信・共有等を促す仕組みづくりが求められる
- 市民や地域の多様な主体との連携による、場としての魅力の向上が望まれる

新図書館の位置づけ

1 阿南市の新たな中央図書館

- ① 市民の高度で多様な学びを支える拠点
- ② 市内の図書館ネットワークの中心
- ③ 資料の保存庫

2 にぎわい・交流を生み出す中心施設

- ① さまざまな人々の居場所・憩いの場、新たなつながりを生み出す拠点
- ② 阿南駅周辺エリアにおける地域づくりや交流の中心

基本理念

知と人が集い輝き まちの未来を育む 創造交流拠点

- さまざまな活動や多様な人々が集まり交流する場となるとともに、図書館をハブとするネットワークの牽引役として、市内全域の教育・学び・地域活動を支えることで、新たな価値が創造される拠点となることを目指す

基本方針・サービス計画

方針1 市民が生涯にわたり自ら学ぶことを支える

- 阿南市の強みである分野や市民のニーズ、将来的な資料環境の変化等にも配慮しながら、市民の読書活動と自発的な学びのための幅広い資料をバランスよく収集し提供
- 市民がレファレンスサービスに慣れ親しみ、より活用できる環境を構築し、他機関等とも連携してサービスを展開
- 子どもから成人までの各年代や利用困難層等、それぞれの市民ニーズを踏まえた資料やサービスを提供

想定するサービス例

- 工業系・情報技術系等の専門書や市民の生活に役立つ実用書の提供
- Zoom 等を活用した学校図書館支援の実施
- 保護者の悩みに応じた育児本や支援制度の紹介
- 仕事、健康、お金等の成年層の関心が高いテーマの講座や相談会の開催

方針2 市内の読書推進活動や学びを支えるネットワークを広げる

- 地域館や移動図書館車と密接に連携し、各面で支援
- 子どもの読書習慣の確立に向けた働きかけや学校における学習支援、読書活動推進に対する支援をさらに充実
- 各種専門機関や庁内部署・機関を含む多様な主体との連携を強化するとともに、図書館サービスネットワークの形成により、まち全体の読書・学習環境を向上

想定するサービス例

- 市科学センターや阿南高専等と連携した講座や展示、体験型ワークショップ等の開催
- 市内施設やボランティア団体等多様な主体への資料を通じた支援や、定期的な会合・研修等を通じた課題・情報の共有
- 学校等と連携した図書館利用体験ツアーの実施

方針3 市民の多様な利用ニーズに応える場を提供する

- 多様な利用ニーズに応じた空間や座席を確保するとともに、さまざまな利用者が共存できる空間や、貸出・閲覧だけでなく、資料を活用した多様な活動ができるスペースを提供
- 利用者が自ら知の世界に触れられる、自然と興味関心を抱くような魅力的な開架空間を構築
- ICT の活用による利便性向上、デジタル情報へのアクセスや新たな価値創造の支援を進めるとともに、市民のリテラシー向上に向けた取組みを推進

想定するサービス例

- 個人用閲覧席やソファ席、グループ学習室等の提供や、静寂とにぎわいの適切なゾーニング
- 多くの本を直接手に取ることができる開架書架や、特集コーナー、子どもの好奇心をくすぐる空間の提供
- 自動貸出機等のセルフサービス環境の提供

方針4 出会い・交流・創造の場となりまちの魅力づくりに貢献する

- 多くの人を訪れる場を目指し魅力的なイベント等を実施
- 市内のさまざまなプレーヤーと協働し、市民の主体的な活動や交流を促すことで新たな発見や出会いを創出
- 阿南市がもつ多彩な魅力を発信するとともに、多様な主体と連携しながらその魅力をさらに高める取組みを推進

想定するサービス例

- 市民同士の交流機会や活動紹介の場の提供
- 資料やスペース提供による市民主催企画の支援
- 阿南特集コーナーの設置や、郷土資料等に日常的に触れることのできる場の提供

※ サービス計画の実現に向けた運営体制づくり

- 各サービス等に精通した人材を確保し、従来業務に留まらない幅広い知見・経験を有する職員を育成
- 市内全域のサービス向上を目指し、図書館サービスネットワークの連携を強化するとともに市民協働を推進

資料収集計画

(1) 重点的に収集する資料

- 各分野の資料を幅広く収集するとともに、対象別サービスの充実につながる資料や阿南らしさの醸成につながる資料等、サービス計画の実現に資する資料を収集

(2) 蔵書規模目標等

- 蔵書規模は、将来にわたる十分な規模の資料保存能力を期待されていること、人口同規模(6~8万人)自治体において、中心市街地に近年整備された類似事例の水準等を踏まえ、**約30万冊**を目指す
- 市立図書館の現況や人口同規模自治体水準等を踏まえ、児童書率は**約30%**、開架率は**50~60%程度**を目指す

施設整備計画

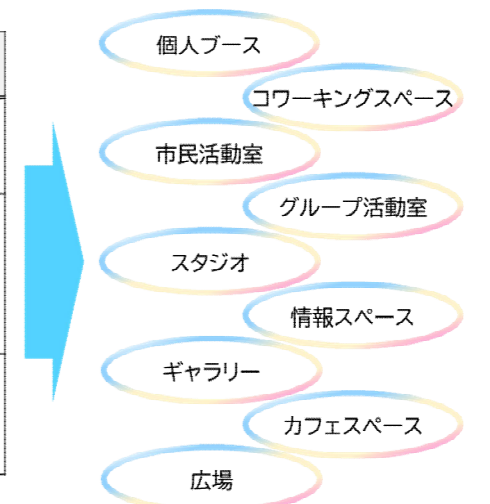
(1) 基本方針

- 「市民の多様な利用に資する施設づくり」「市民の居場所としての居心地のよさ『阿南らしい』施設づくり」「機能性・効率性を備えた施設づくり」「安心安全かつ将来にわたる利用に対応可能な施設づくり」の観点に留意して施設整備を進める

(2) 必要諸室および面積の設定等

- 想定するサービスの提供を念頭に置くと、複合施設における図書館専有部の必要面積は**2,700~3,000 m²程度**
- 閲覧席は施設全体で**200席以上**を確保
- 他、複合施設全体の機能配置等の検討とあわせて、アンケートやワークショップを通じて得られた市民の希望に応える諸室機能として、**個人ブース、グループ活動室、スタジオ、ギャラリー、カフェスペース、広場**等の導入可否等を今後検討

利用形態	市民意向
個人利用	・1人で使える静かな環境
グループ利用	・他の人との交流の場 ・グループ活動の場 ・創作活動の場 ・活動の成果の発表の場
	・子ども・友人と気兼ねなく過ごす場



(3) 諸室の配置の考え方

- 諸室機能の配置等については、音のゾーニングに留意するほか、「読書や学習だけでなく、さまざまな活動やチャレンジしようとする多様な人々が集まり交流する」場づくり等、本計画が目指す新図書館のすがたの実現に資するよう留意

